

電子機器用・通信機器用部品製造業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	2	18 ～ 19	出張で駅前の横断歩道を歩行中、乗用車にはねられた。	231	17	1000 ～ 9999
1999	8	8 ～ 9	インゴット(シリコン製の棒状のもの)を全自動外周研削機で研削する作業を行っていたところ、インゴットを掴んで研削場所まで運ぶ同機械のローダーのマニプレータとインゴット及びインゴットを載せたパレット(架台)との間に挟まれた。	153	7	300 ～ 499
1999	9	14 ～ 15	工場内が突然停電したので設備担当者が屋外受変電設備に行ってみたとこ ろ、この設備の点検作業を行っていた者が感電死していた。	352	13	300 ～ 499
1999	10	9 ～ 10	工場倉庫内で、ハイピックリフト(運転台も昇降するフォークリフト)の フォークを地上から3.8mの高さに停止させ、台上の袋(25kg)を降ろそう としたときに墜落した。	222	1	100 ～ 299
1999	10	6 ～ 7	電子機器用のNCルーターを用いてプリント基盤を加工するための準備作 業をしていた者が、NCルーターのリニアウェイ(部品をセットする可動式 の台)と本体との間に首を挟まれているところを工場長が発見した。	169	7	30～ 49
2000	7	17 ～ 18	製造ライン工程のブラウン管真空マシンの水ホースが外れて水漏れしてい る箇所の修理作業中に、誤って加熱ヒーターの露出した電源供給用端子部 分(160v)に腕が触れて感電した。	169	13	300 ～
		14	取引先に向かうため乗用車で国道を走行中、対向車線にはみ出して、対向			

2000	2	～ 15	の大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2000	9	～ 9	8 携帯電話機ケース(Mg合金)のバリ取りに使用している集塵機のフィル ター等をエアースクレーパーにより清掃していたときに、Mg合金の粉末が発 火し作業を行っていた2名が負傷し、うち1名が死亡した。	519	16	30～ 49
2000	8	～ 14	13 部品を納入するため軽ワゴン車で走行中、県道の緩い右カーブでハンドル 操作を誤って路外にはみ出し、電柱に衝突した。	231	17	10～ 29
2001	2	～ 18	17 通勤バスから宿舎近くのバス停で下車し横断歩道を横断中、ライトバンに はねられ、さらに対向の乗用車にもはねられた。	231	17	1000 ～ 9999
2001	6	～ 16	15 ダンボールのゴミを小型焼却炉で焼却していたときに、イソプロピルアル コール98%含有の溶液を容器ごと焼却炉に入れたため、激しく燃焼し上半 身を火傷(体表約50%Ⅲ度熱傷)した。	512	16	50～ 99
2001	6	～ 16	15 仕事の打合せに向かうため社有車で国道を走行中、センターラインを超え たため対向の路線バスに正面衝突した。	231	17	10～ 29
2001	4	～ 11	工場内のエレベーターで2階から1階へ製品を降していたところ、搬器に積 んでいた荷の一部(台車：45cm四方)がエレベーターの昇降路に引っかか り搬器が停止してしまったので、その台車を取り除こうとしたところ、 引っ掛かりが取れて急に搬器が落下し、2階床面端と搬器の上枠との間に はさまれた。	214	7	50～ 99
2002	1	～ 20	19 顧客先から事業場に戻るため軽乗用車で走行中、緩やかなカーブで運転操 作を誤り道路左側の電柱に衝突した。	231	17	1～9
2002	6	～	19 自動車道をトラックで走行中、雨天のためスリップして横転し後続車に追 突された。	221	17	1～9

		20				
2003	1	13 ～ 14	リチウムイオン電池製造ラインで、ライン上にある真空乾燥装置内に入っていた製品（電池）を乗せたパレットがライン上からずれていることに気が付き、身体を乾燥装置内に入れ修正しようとして、窒素で充填されている乾燥設備の窒素充填側の扉を開けたため酸素欠乏により死亡した。	714	12 ～ 299	100 ～ 299
2003	5	15 ～ 16	乗用車で自動車道を走行中、事故渋滞が発生していたので減速したところ、後方を走行していた大型トラックに追突され、後部座席に乗車していた者が乗り上げてきたトラックと前部座席との間にはさまれた。	221	17	50～ 99
2004	6	9 ～ 10	研修日に会議室に入った途端、倒れた。	911	90	300 ～ 499
2004	1	7 ～ 8	出張先（海外）の宿泊施設の浴室で、都市ガスにより一酸化炭素中毒となった。	911	12	100 ～ 299
2004	4	16 ～ 17	ハードディスクを製造するクリーンルーム内で、メンテナンスの作業に従事していたが、作業を中断し屋外の休憩場所で休憩するため、クリーンルーム内の階段を下りたとき、足を踏み外して転落した。	413	1	50～ 99
2004	6	15 ～ 16	電気室内において、制御盤の部品の取付作業を行っていたところ、体調が悪くなり病院に搬送された。	911	90	10～ 29
2005	12	19 ～ 20	列車が転覆し、乗客として乗車していた被災者が巻き込まれた。	232	18	300 ～
2005	10	9 ～ 10	乗用車を運転して県道を走行中、左カーブに差し掛かる付近で対向車線にはみ出し、対向してきた大型ダンプトラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
		7	出張中、宿泊していたホテルの部屋（7階）の窓を開閉しようとして、床			300

2005	2	8	から90cm高い位置にある内窓の枠と外窓の枠に足をかけたところ、バランスを崩し転落した。	418	1	～ 499
2005	2	6 7	自宅の居間で倒れた。	921	90	300 ～
2005	3	22 23	マイクロバスで走行中、点滅信号のある交差点で大型トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	50～ 99
2005	3	22 23	マイクロバスで走行中、点滅信号のある交差点で大型トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	50～ 99
2007	3	5 6	被災者は、品質管理課長として、新工場の設立、不良製品への対応に追われる等、精神的、肉体的に追い込まれた結果、業務による心理的負荷のため、敷地内の物置小屋で縊死した。	921	90	50～ 99
2007	9	13 14	イベント会場にある搬入口に社用車を一時停止し、荷を搬入し終えてまもなく、被災者は、車が逸走して後退するのを発見し、車の後部に回り停車させようとして、その車に巻き込まれた。	231	7	300 ～
2007	10	18 19	降雨時に片側2車線の自動車道を運転中に、走行車線を走っていた大型トラックを追い抜き、走行車線に戻ったところ、車がスリップして路肩のガードロープに接触、道路側に跳ね戻された時に追い抜いた大型トラックに追突された。	231	17	1000 ～ 9999
2008	9	4 5	被災者は半導体製造設備メンテナンス作業の際、装置に組み込まれているガラス製のビン（オキシ塩化リンが入っている）に接続されているビニールホース内の洗浄作業をしていたところ、突然、ビンが破裂して内部に入っていたオキシ塩化リンを浴びて死亡した。	519	15	300 ～
2009	4	10	2tトラックをレンタルし、帰社しようとしたところ、交差点で右折してきた大型トラック（12.5t）と衝突した。	221	17	50～ 99

		11			
2009	5	9 ～ 10	液晶ディスプレイ製造工場において、クリーンルームにポジ型フォトレジスト現像液（水酸化テトラメチルアンモニウム（TMAH）20%水溶液）を供給する装置のフィルターの交換作業を2人で行っていたところ、フィルターの継ぎ手から現像液が噴出し、1人が現像液を浴びた。	514	12 300 ～
2009	11	1 ～ 2	金めっきラインのセンサーが異常を示したため、被災者がラインの裏側をとおる異常箇所に向いたところ、当該ラインの自動搬送機と当該ラインを支えている支柱の間にはさまれた。	169	7 30～ 49
2009	1	11 ～ 12	成形業務に従事する被災者が、射出成形機の取り出し機と検査機の間にはさまれた。	164	7 50～ 99
2010	1	23 ～ 24	被災者は製造課に所属し、機械オペレーターとして業務に従事していた。3カ月前に断り続けていたグループリーダーに昇格したが、昼夜を問わずの対応、上司からの説教等強い心理的負荷により、焼身自殺を謀り、死亡したもの。	921	90 100 ～ 299
2010	5	16 ～ 17	工場内に設置されている高さ約7mの塗装ブース天井において清掃作業中、設備間の隙間を埋めるために取り付けられた鉄板を踏み抜き、地上へ落下し死亡した。	391	1 100 ～ 299
2011	3	22 ～ 23	出張先から直接自宅に帰る際に交通事故にあい11日後の3月27日に死亡した。出張先から最寄り駅までは電車、最寄り駅から自宅までは自転車での移動。被災者は横断歩道を渡ろうとしたところ、交差点を左折しようとした乗用車にひかれた。	231	17 300 ～
2012	10	10 ～ 11	休憩時間中、作業場へ向かう階段から墜落した。	413	1 100 ～ 299
2012	4	13 ～	被災者は自社から取引先へ乗用車で県道（片側1車線）を走行中、対向車線にはみ出して、対向してきた大型トラックと正面衝突し、即死した。	231	17 10～ 29

		14			
2013	7	0 ～ 1	めっきラインで1名で作業を行っていた際、ライン内に立ち入ったところ、2つのハンガーに体をはさまれた。2つのハンガーに体をはさまれたままキャリアが動いたため、頸部が圧迫された。	169	7 300 ～
2013	6	11 ～ 12	高速道路で前方が渋滞していたため40 km/hで運転走行中、およそ90～95 km/hで走行していた後続車（トラック）に追突された。	221	17 10～ 29
2015	1	0 ～ 1	被災者は、事業場から徒歩10分程度にある間借りしていた自宅アパート内において、縊死しているのを発見されたもの。被災者は、中国地方の事業所から関東地方の事業所に転籍して勤務していたが、直近3か月の時間外勤務が91時間15分、123時間、84時間45分であった。	921	90 ～ 299 100
2016	6	7 ～ 8	被災労働者が自宅マンションより飛び降り、外傷性出血性ショックにより死亡した。	921	90 ～ 299 100
2017	1	0 ～ 1	被災者は午前0時頃、被災者宅で寝始めたときに「うっ」と声を発した後、動かなくなり、それに気づいた被災者の家族が救急車を要請し、病院に搬送されたが、午前1時17分に死亡した。	921	90 300 ～
2018	7	10 ～ 11	事業場に通じる市道において、道路脇に生えていた樹木の枝が、高さ約4メートルの位置で道路上に突き出ていたため、高さ約3.4メートルの三脚脚立に乗り、手持ち折りたたみ式のこぎりで枝を切っていたところ、三脚脚立から墜落し、頭部を強打して死亡した。被災者は保護帽未着用、安全帯不使用であった。	371	1 ～ 299 100
2020	7	8 ～ 10	マグネットを製造するための焼結炉に、断熱材を留めていたピンを回収するため立ち入った労働者1名が酸欠状態になり倒れ、当該労働者を助けるために同僚労働者1名が焼結炉に入ったところ、同様に酸欠状態となり被災、両名とも死亡したもの。	714	12 ～ 299 100
		8	マグネットを製造するための焼結炉に、断熱材を留めていたピンを回収す		100

2020	7	～ 10	るため立ち入った労働者1名が酸欠状態になり倒れ、当該労働者を助けるために同僚労働者1名が焼結炉に入ったところ、同様に酸欠状態となり被災、両名とも死亡したものの。	714	12	～ 299
------	---	---------	--	-----	----	----------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。